

川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 42号 平成12年2月1日 編集・発行 川崎市立日本民家園



古民家でいけばな展示（野原家）

古民家の新しい魅力

毎年10月・11月の2か月間は、民家園まつりの期間としてご来園いただいた方々に楽しんでいただきながら、文化財への理解を深めたり伝統文化を伝えていくための様々な催し物を開催しています。

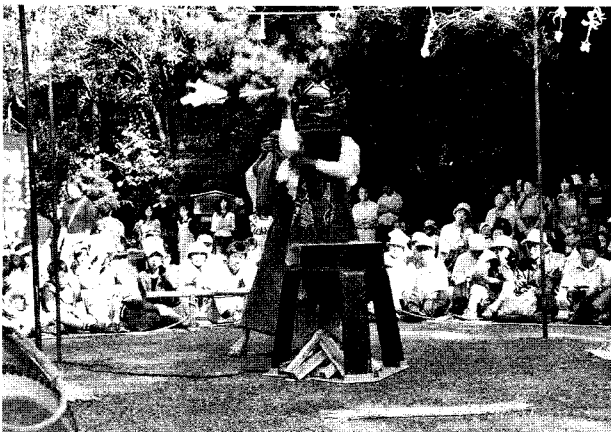
平成11年度の民家園まつりでは、今までとは少し違った企画もおこないました。古民家の新しい魅力を見つけようとする試みのいくつかをご紹介します。

今回の民家園まつりでは、民俗芸能公演として国選択・県指定無形民俗文化財「箱根宮城野湯立獅子舞」や船越の舞台を活用した舞台公演「和太鼓の響」、日頃から園内で活動をおこなっている民具製作技術保存会の作品展示会や民具の製作実演、「丸太から柱ができるまで」の実演、そして様々な伝統技術技法の実演会などをご覧いただくとともに、古民家や伝統文化に気軽に親しんでいただけるように「むかしあそび」のコーナーや「こども大工入門」体験、「お茶席の会」などもおこなわれました。

そして、新しい試みとして、「いけばな展示」、「ミニコンサート」、「古民家で聞く昔話」を実施してみました。古民家や園内の雰囲気と調和する新しい文化活動の創造の場として文化財建造物である古民家を活用しようというもので、来園者の皆さんにも楽しんでいただけたと思います。

今後も、民家園まつりや催し物を充実させて、魅力ある民家園にしていきたいと考えております。

なお、民家園まつりの企画はいずれもボラ



箱根宮城野湯立獅子舞



丸太から柱ができるまで

ンティアとして参加していただいた皆さんによって実現できたものばかりであり、ご支援ご協力に感謝いたします。

いけばな展示と実演会

民家園まつりの期間中の11月6日と7日に園内の古民家を会場とするいけばなの展示をおこないました。

展示にご協力をいただいた石倉社中の皆さんは草月流に属する方々ですが、草月流というと、自由な発想と現代的で斬新な作品で有名です。そして、故岡本太郎氏も草月展に出品するなど、前衛芸術の担い手として交流をしていました。岡本太郎美術館の開館と重なるこの時期に、民家園での展示をできたのも何かの縁なのかも知れません。

今回の展示にあたっては特に民家園の古民家にふさわしい作品をとということで生けていただきました。素朴で力強い古民家を舞台として、日本の伝統的風景と融合する作品群を創作していただきました。

展示をおこなったのは鈴木家から清宮家までの間の9軒で、板の間に大きく華やかな作品や床の間や囲炉裏に自然と溶け込む作品が飾られました。

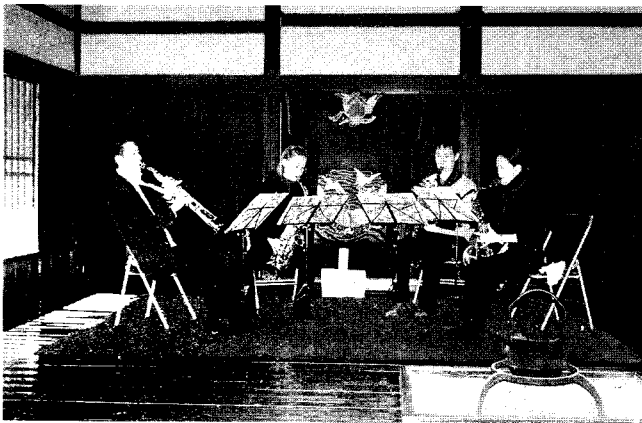
そして7日には、作田家において、花をその場で生けて古民家の中に飾りつけていくという実演会（デモンストレーション）も開催いたしました。



いけばな実演会

ミニコンサート 「サクソフォンの調べ 日本の歌」

ミニコンサートは2回目になりますが、前回の佐々木家の庭とは変えて、今回は作田家の床上を会場として開催しました。板壁に囲まれた重厚な古民家と澄んだ響きを聞かせる西洋楽器の組み合わせによる臨場感あふれる演奏でした。昭和音楽大学生の有志のグループ「サクソフォンカルテット・さくら」により、「もみじ」や「ふるさと」、「竹田の子守歌」などなつかしい日本の歌や民謡、そして「G線上のアリア」などクラシックの名曲などが演奏され、会場にいらした皆さんには好評をいただけたようでした。



古民家で聞く昔話

囲炉裏に焚かれている炎を見ていると、古民家の囲炉裏のまわりでお年寄りが語る昔話に耳をかたむける子どもたちの姿が思いうかんできます。といっても、そうした場面をそのまま再現し昔話しを聞いていただくというのはむずかしいので、今回は演劇的な演出を加えたかたちでの昔話の会をおこなうことにしてみました。出演していただいたのは、劇団での公演活動などをおこなっている女優の上原千夏さんです。

工藤家のダイドコロを舞台として、「養蚕の始め」(麻生区岡上)、「しばられ松」(高津区向ヶ丘)、「うぐいすの里」(山形県)、「ねこの踊り場」(横浜その他)といった川崎の昔話を中心に語られ、聞いているうちに昔話の世界に引き込まれていくように感じていただけたのではないのでしょうか。

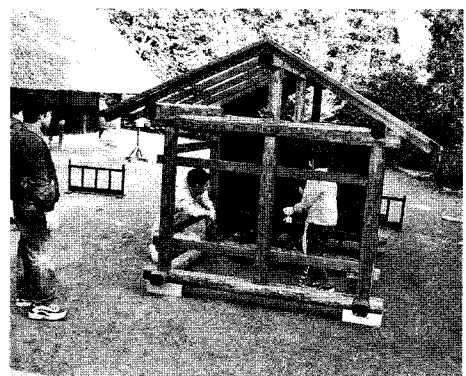


子ども体験講座「むかしの生活体験」

「むかしの生活体験」講座を昨年(2019年)の11月23日から1月30日の期間中の第2・4土曜日と日曜祝日に10回実施しました。これは文部省の親しむ博物館づくり事業の一環として学校が休みになる第2・4土曜日に子どもたちが自らふれることのできる講座などをおこなうものです。石臼をひいたり



りかまどを焚いたりして米の文化にふれる米コース、小屋のような大型の家の模型を組み立てることで古民家に使われてきた技術や工夫を知る大工仕事コース、草履や草鞋を履いたり縄をなつて昔の生活の豊かな知恵にであう民具コースの3つのコースで、現在の便利な生活にもつながる先人の努力や工夫を子どもたちに実際に体験しながら楽しんでもらいました。



新設‘奥の門’と共通割引券をどうぞご利用ください

平成11年10月30日に岡本太郎美術館が開館しましたが、これにあわせて民家園‘奥の門’が新たに設置されました。既設の出口門にあった警備立哨小屋を一部増築して、入園券売場を設けました。もちろん今まで通り出口門としてもご利用いただけます。これまでは、入園するときには本館の入園口だけしか利用できませんでしたでしたが、この‘奥の門’設置により岡本太郎美術館鑑賞後、あるいは、科学館立ち寄り後の民家園見学がとても楽になります。わざわざ本館入園口まで後戻りする必要がないからです。時間的にだいぶ節約できますので、その分どうぞごゆっくりと民家園を見学してください。また、民家園と岡本太郎美術館との共通割引券の発売もしておりますのでご利用ください。

岡本太郎美術館を出てまっすぐのびた杉木立の小径を歩むと、左手には深緑の水をたたえた‘奥の池’があり、その先の道を左に折れて階段を昇ると、木立の中に静かにたたずむ‘奥の門’があります。ここから今きたばかりの路を振り返ると、先ほど通り過ぎた緑色の奥の池と杉やもみじの木立、小枝から

洩れてくる幾条もの陽光、これらの豊かな自然が織りなす風景がパノラマのように広がり、ちょっとした感動を訪れた人々に与えてくれるでしょう。とくに若芽の萌えいづる春や錦に色づく秋は、美術館の絵画にも劣らず素晴らしい自然の風景画です。

このあと民家園の広大な敷地に散在する数々の古民家をめぐれば、幾多の風雪に耐えて今なお悠久の時を過ごす大木の柱や古の人々と団欒をともした囲炉裏などがあなたに優しく語りかけ、きっと新たな感動を発見できることでしょう。職員一同心からお待ちもうしあげます。



民家園 春の催し物 ご案内

秋川歌舞伎

あきる野座 農村歌舞伎公演 (秋川歌舞伎保存会)

絵本太功記十段目尼ヶ崎閑居の場

5月3日(祝・水) 13:30~15:15

会場：⑳ 船越の舞台 (屋外の階段席で250人程度が座れます。)

料金：200円 (入園料別) 12:30から会場受付
満員の場合は入場できないことがあります

展示会「日本のにわとり」

5月13日(土)・14日(日)

古民家の庭を会場にして天然記念物に指定された
17種類を含む様々なニワトリを展示します。

お茶席の会

4月下旬と5月下旬に開催の予定